

3年1組 国語科学習指導案

場所 3年1組教室

1 単元名 食べ物ずかんをつくろう

2 教材名 「すがたをかえる大豆」 国分 牧衛
「身近な食べもののひみつ」 幕内 秀夫/神 みよ子

3 単元のねらい

【関心・意欲・態度】

- ・食べ物の加工の工夫と、それによる変化について書かれた読み物や図鑑を、興味をもって読もうとしている。
- ・読み手の興味・関心を引くために、「中」の段落の順番を工夫しようとしている。

【読むこと】

- ・大豆の加工の工夫と、それによる大豆の変化について、接続語や調理に関する言葉などに着目して的確に読み取ることができる。
- ・「中」の段落の順序性について筆者の意図を考えながら読み取ると共に、教材で提示された以外の順序について、根拠をもって提案することができる。

【書くこと】

- ・食べ物図鑑において、「中」の事例を意図的に配置し、「調理に関する言葉・作り方・できた食品」の3つの内容に沿って書くことができる。
- ・グループ交流会を通して、「中」の配列について、自分の考えを明確にして意見を述べ合うことができる。

4 単元における主な言語活動 小学校学習指導要領解説 国語編 p61より

「書くこと」の言語活動例のウ 収集した資料を効果的に使い、説明する文章などを書く言語活動資料を使い、説明する文章を書く言語活動である。

「収集した資料を効果的に使い」とは、説明する相手や目的に応じて、本や文章、図表、絵画、写真、具体物などの資料を収集し、考えを高めること、構成や記述のためにこれらの資料を活用することである。書くべき「説明する文章など」には、文章だけではなく、図鑑や小冊子などの形も考えられる。ここでは、例えば文章を図解する資料となっていることや、写真やグラフなどを具体的に解説した文章となっていることなど、文章と図表などの資料とが相互に密接な関連をもつものであることを意識できるようにすることが大切である。

5 本単元のねらいに関わる学年の児童の実態

(1)関心・意欲・態度(:できている :課題である)

1学期の単元「順番を工夫して書こう」では、自分の選んだ3枚の写真の順番を自分なりの考えをもって工夫して並べ替える姿が見られた。

「もっと違う順番はないか」と新しい考えを生み出す意欲が不十分な児童もいる。

(2)読むこと(:できている :課題である)

1学期の単元「まとまりに気を付けて読もう」では、「段落」という用語を覚え、「はじめに」「次に」等の接続語を手がかりに、実験や研究内容、結果を読み取ることができた。

「中」の順序性を意識することはできるようになったが、その順序性に込められた筆者の意図を読み取ることについては不十分である。

(3)書くこと(:できている :課題である)

1学期の単元「順番を工夫して書こう」では、3つの説明カードを入れ換えながら、それに合うように「まず」「次に」「最後に」などの接続語を置き換えることができた。

相手意識をもって順序性を考える意識が弱いため、考えた順番について「なぜ、その順番にしたか」という根拠を述べることが十分ではない。

6 研究テーマに関わって

(1) 学習のユニバーサルデザイン化

食品の実物写真などの提示

- ・「中」の5つの工夫を読み取るために、キーワードとなる言葉とともに、加工してできた食品の実物写真をセットにして掲示する。
順序性を意識させる学習プリントの工夫・取り外し可能な説明カードの活用
- ・「中」の順番を意識するために、学習プリントでは「つなぎ言葉など」の欄を設ける。
- ・順番を入れ替える時に、接続語も同時に入れ替えができるように、取り外しができる説明カードを使用する。
グループ交流の位置付け
- ・「中」の順番を検討する際に、グループ交流を位置付ける。

(2) 協同的に学び合う学習集団の育成

グループ交流の仕方の指導

- ・本単元では、「中」の順番を検討する際にグループ交流を位置付ける。その時、互いの考えが深まるように、「司会進行表」を活用して、話し合いの流れを習得させる。
- ・提案者、司会者、助言者のそれぞれが交流会での視点をもって臨めるように、「交流会の視点表」を活用し、話し合いを活発化させる。

(3) 言語活動の充実を目指した単元指導計画の在り方

指導事項及び言語活動を系統的・発展的に配置した年間指導計画（年間）

- ・1学期は、「段落の順番を意識すること」に重点をおいて、単元「順番を工夫して書こう」の学習をした。その際に、時間的羅列ではない順番があることを知り、段落の順番の並べ替えを実践した。本単元では、「段落の並びには筆者の意図があること」を理解させ、自分の提案する「中」の配列の順序性に根拠をもたせたい。
第3次を中心とした言語活動の充実（各単元）
- ・第3次では、自分の書きたい食材を選んで食べ物図鑑を書く。その際、「中」の事例はなぜこの順番なのか、配列に意図をもたせて書く。
- ・グループ交流で、各自が考えた「中」の配列の順番について話し合う。そして、仲間から助言を受けることで、自分が考えた以外の、新たな順序の視点について学ぶ機会とする。
- ・完成した「食べ物ずかん」を低学年の友達に紹介することで、他者評価を取り入れ、読み手を意識して内容や順番を構成する楽しさを味わわせる。
習得・活用のサイクルを生み出す系統的・発展的な単元構成（各単元）
- ・第2次で教材「すがたをかえる大豆」の読み取りを行い、「筆者の意図によって『中』の順番が工夫されていること」を習得する。これらの習得した内容を活用して、第3次の自分が選んだ食材について図鑑を書く活動で、読み手を意識した順序で「中」の事例を配列する。

(4) 協同的な学び合いを通して、読みや表現を深める授業の在り方

児童が見通しと願いをもち、学習を振り返る場の設定

- ・学習の見通しをもたせるため、「交流会の視点表」「司会進行表」を提示し、活用する。
- ・グループ交流後は、「交流による自分の考えの変容」をとらえる場を設定する。

②言語活動の充実を目指した工夫改善

- ・工夫改善の1つ目は、「説明カードを取り外し可能にしたこと」である。手元で説明カードを入れ替え、操作する中で、様々な配列が生み出しやすくなると思った。
- ・工夫改善の2つ目は、「説明カードの接続語と内容のカードを切り離したこと」である。こうすることで、順序を入れ替えた際に、接続語にも着目しやすくなると思った。
- ・工夫改善の3つ目は、「写真や絵を説明カードに加えること」である。写真や絵が視覚的支援となり、調理に関する言葉の意味がより理解しやすくなると思った。
協同的な学び合いを生み出す指導・援助
- ・指導・援助の工夫として、提案者には、なぜその順番にしたのか、その根拠を明確にもたせる。また、司会者には、出た意見についてどう思うか、他の仲間聞き返すことを指導し、考えを深めていく。

(5) 他の活動との関連

家庭学習での日記

- ・毎週1回の日記で、同一テーマで3つ以上の材料を取り上げ、その並びを工夫して書く。

7 単元指導計画(全18時間)

時	主な学習活動	指導・援助
1	大豆に関する知識を確認した後、本時の課題を確認する。 単元の目標を確かめ、学習の見通しをもとう。 本文を音読する。 感想を書き、全体交流する。 「食べ物ずかん」作りに向けて、学習の見通しをもつ。	大豆の実物を用意し、単元への興味・関心を高める。 学習の見通しをもつために、学習の流れを掲示する。また、食べ物図鑑の完成品を提示して、図鑑作りへの意欲を喚起する。
2	本時の課題を確認する。 本文を「はじめ」「中」「終わり」の3つに分けよう。 「はじめ」「中」「終わり」に分け、全体交流する。 「はじめ」「中」「終わり」のはたらきを考える。 物語教材「大きなかぶ」の登場人物の登場順を全体交流する。 自分で考えた順番について、グループ交流する。	段落の構成を学ぶために、既習教材「ありの行列」を用い、接続語等に注目させる。 既習教材「大きなかぶ」を用い、筆者の意図を考えて順番を全体交流で検討する。 自分の考えをもつために、登場人物の登場順について考え、検討する。
3 ・ 4	本時の課題を確認する。 大豆をおいしく食べるためには、どのような工夫があるか、読み取ろう。 個人追究の後、全体交流をする。 国語辞典で「いる」「にる」「ひく」「すりつぶす」「しぼりだす」の意味を調べる。 教科書の順番について、1人読みする。	「いくつの工夫がありますか。」と質問することで、「工夫」という言葉に着目させる。 見つけた大豆の加工の工夫や食品について写真と言葉を一致させて提示する。 見つけた工夫の言葉は常時掲示し、自分で調べる際のヒントにする。
5	本時の課題を確認する。 「中」の順番はどんな順番で並んでいるか、読み取ろう。 教科書の「中」の順番について全体交流する。 個人で「中」の順番を考え、グループ交流する。	「順番には、筆者の意図があること」に気付くために、教科書の順番について考える。 自分の考えた順番にも意図をもてるように、その理由を考える。
6 ・ 7 ・ 8	本時の課題を確認する。 自分の作りたいずかんの食材を決め、せつ明カードの作り方を知ろう。 牛乳・卵・小麦・米などの中から決める。 メモカードを使って、情報の取り出し方を学ぶ。 メモカードをもとにした説明カードの書き方を学ぶ。	メモカードを使って、本のどこに着目し、情報をどのように取り出すかを、「魚」をモデルにして、全体指導する。 説明カードは、「接続語、調理に関する言葉、作り方、食品」の4点で書くことを指導する。
9 ・ 10	本時の課題を確認する。 自分の決めた食材についてせつ明カードを書こう。 本から必要な情報を取り出し、メモカードに記録する。 メモカードをもとに、説明カードを書く。	本からの情報を取り出すことに苦労している児童には、着目する部分を朱書きなどにより支援する。 必要に応じて、穴埋め式の説明カードを用意し、選択できるようにする。
11	本時の課題を確認する。 自分の書いたせつ明カードの「中」の順番を考えよう。 順番を決め、その理由を書く。	自分の意見に根拠をもつために、学習プリントに、理由を書く欄を設ける。
12	本時の課題を確認する。 グループ交流の仕方を知り、自分の書いたせつ明カードの「中」の順番について話し合おう。 モデルグループの発表を見て、交流の仕方を学ぶ。 グループの説明カードを読み、助言を考える。	交流会の流れを提示する。 提案者、司会者、助言者のどの立場でも意欲的に話し合いに参加できるように、「交流会の視点表」を提示する。
13 本 時 ・ 14	本時の課題を確認する。 自分の書いたせつ明カードの「中」の順番について話し合おう。 2人が提案し、グループ交流する。 交流の振り返りをする。	話し合いを通して、考えが深まっていった跡を残すために、提案者・助言者、それぞれの立場で振り返りをする。
15 ・ 16 ・ 17	本時の課題を確認する。 自分の書いたせつ明カードの「中」の順番を決めて、食べ物ずかんを書こう。 「中」の順番を決定する。 図鑑の書き方を知り、絵や写真を入れて、図鑑を書く。	図鑑の書き方について、「魚」をモデルにして全体指導する。 「中」の内容に合った写真や絵を入れながら、図鑑を書くことを指示する。
18	本時の課題を確認する。 すいこうの仕方を学び、ペアですいこうしよう。 推敲の仕方を学び、ペアで推敲する。 作品について、自己評価、他者評価する。	推敲の視点を提示する。 自己評価に加え、他者評価を入れることで、順番を工夫して書く楽しさを実感する。

8 本時のねらい

提案者：グループ交流の中で，自分が書いた説明カードの配列の工夫と，その理由を話し，助言を受けて，「中」の配列に対する自分の考えを深めることができる。
 助言者：グループ交流の中で，友達の提案を聞いて，内容や順序性のよさを見つけて述べたり，新しい配列を考えたりすることができる。

9 本時の展開 (13 / 18)

選	主な学習活動	指導・援助
つかむ	<p>本時の課題を確認する。</p> <p>課題：自分の書いたせつ明カードの「中」の順番について話し合おう。</p> <p>交流の流れを確認する。 提案者，司会者，助言者の視点を確認する。</p>	<p>交流会の見通しをもつために，交流会の流れを提示する。</p> <p>提案者，司会者，助言者が，各立場で意欲的に参加するために，「交流会の視点表」を提示する。</p>
広げる	<p>グループ交流をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 提案者は，考えた順番を提案する。 <p>提案者Aさん ~提案~</p> <ul style="list-style-type: none"> 『すがたをかえる魚』図鑑を作ります。 4枚の説明カードを紹介する。 かまぼこ 缶詰 スモークサーモン 干物 考えた順番は，『だんだん魚の形が見えてくる順』です。 読む人に興味をもってもらうために，始めに全く魚の形のない「かまぼこ」をもってきました。 <p>・内容や順番でよかったところを交流する。</p> <p>助言者Bさん 4枚の説明カードの工夫が，「練る・漬ける・いぶす・干す」と全て違うので，読む人はいろんな工夫があると感じると思います。(内容)</p> <p>助言者Cさん 始めに「かまぼこ」をもってくることで，読む人は意外な感じがして，興味をもつと思います。(順番)</p>	<p>交流会が早く終了したら，助言をされた意見をもとに，「中」の順番を決めるよう指示する。</p> <p>提案者は，以下の5つの項目について提案する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 作る図鑑の題名 4枚の説明カードの紹介 4枚のカードの順番 接続語を入れた説明 配列の順序の理由 <p>提案する時は，聞き手に視覚的に分かりやすく伝えるため，自分が取り上げた食材の写真を提示して話す。</p>
深める	<ul style="list-style-type: none"> 新しい順番があれば提案する。 <p>助言者Dさん ~提案~</p> <ul style="list-style-type: none"> 「干物→スモークサーモン→缶詰→かまぼこ」という『だんだん形が分からなくなる順』を提案します。 魚の形ははっきり見えるものから始めて，最後に形が全く分からないものをもってきた方が読む人の興味は湧くと思います。(理由) <p>司会者Eさん Dさんの提案について，どう思いますか。</p> <p>助言者Cさん Dさんの順番だと，魚の形が分からなくなっていくほど，手を加えられているので，「あれも魚が使われているのか。」と読む人は興味をもつと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> 提案者は提案に対する感想を述べる。 <p>提案者Aさん ~感想~</p> <p>はじめに「かまぼこ」をもってくるよりも，魚の形の見えるものから始まり，だんだんと形が見えなくなる方が読む人の興味は強くなると思いました。</p>	<p>説明カードの記述や接続語に着目させるために，班員分の説明カードを印刷し，指でなぞらせる。</p> <p>「司会進行表」を活用して交流会を進めるように，司会者に助言する。</p> <p>新しく出た順番について，ホワイトボードにメモするように，司会者に助言する。</p> <p>交流を活発化させるために，提案された順番について意見をきくように，司会者に助言する。</p> <p>交流会中，教師は各グループを回り，司会の進行を補佐したり，自分の考えを述べることができるように声かけをしたりする。</p>
まとめる	<p>グループ交流で深まった考えを明らかにする。</p> <p>提案者Aさん(振り返り) DさんやCさんの意見で，読む人に興味をもってもらうためには，最後に形の分からない，意外なものをもってきたほうがよいと分かった。</p> <p>助言者Dさん(振り返り) Cさんの意見から，自分の提案した順番は，形がだんだん見えなくなるだけでなく，手を加えられる回数が多くなるという見方を学んだ。</p> <p>全体で振り返りをする。</p>	<p>以下の点で振り返ることで，交流会で学んだことを明らかにし，学びの実感をもてるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 提案者：友達の意見を聞いて思ったことや学んだこと。 助言者：友達の提案に助言できたことや気付いたこと。